

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 3 1 年度第 1 回相模原市子ども・子育て会議				
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 1 5 (直通)				
開催日時		平成 3 1 年 4 月 2 3 日 (火) 午後 6 時から 8 時 4 0 分				
開催場所		けやき会館 2 階 職員研修所 大研修室				
出席者	委員	1 3 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	2 1 人 (こども・若者未来局次長ほか 2 0 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 委嘱式 3 あいさつ 4 自己紹介 5 相模原市子ども・子育て会議の概要について 6 会長・副会長の選出 7 議 題 (1) 会議の公開について (2) 第 2 次相模原市子ども・子育て支援事業計画について 8 その他 9 閉 会				

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 委嘱式

3 あいさつ(こども・若者未来局次長)

4 自己紹介

5 相模原市子ども・子育て会議の概要について

事務局から相模原市子ども・子育て会議の概要について、資料に基づき説明を行った。

6 会長・副会長の選出

相模原市子ども・子育て会議条例第4条第1項に基づき、委員の互選により、会長に片山委員、副会長に園田委員が選出された。

7 議 題

(1) 会議の公開について

事務局から会議の公開について説明を行った。

子ども・子育て会議については原則公開とし、個人情報を取り扱う場合等は会議で協議を行うこととした。

(2) 第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画について

○ 部会委員構成案として、保育事業に関わる団体を加えることとしているが、計画の対象となる子どもの年齢層の大部分を占めるのは小・中学生であるため、小中学校長会推薦の委員も加わったほうが良いのではないかと。

○ 学校の教員は、子どもを指導はできても、保護者を指導することはできないため、保護者対応で課題を抱えていることがある。そのような学校の現状や福祉関係部署のフォローが必要であること等について、会議で意見として伝えることができると思う。

子ども・子育て支援事業計画策定部会の委員について、資料1 - 3の委員及び川上孝生委員を会長が指名した。

- 計画策定のスケジュールと会議の日程を見ると、10月の子ども・子育て会議において市に答申をすることとなっているが、その直前は、部会しか開催されず、部会で議論や調整がされた内容は、子ども・子育て会議において審議はしないのか。

会議を開催する予定はないが、部会での審議を経て作成した計画案を子ども・子育て会議の委員全員へ送付し、意見を集約する予定である。

- 答申は、会議としての責任が伴うものなので、意見集約をするということであれば、その期間をきちんと設定するようお願いする。
- ニーズ調査の対象や設問については、内容が標準的であると感じ、支援が必要な子どもについてのデータやニーズの把握に不足がないかと心配している。また、昨年度に作成した幼児教育・保育ガイドラインの内容を、地域・家庭・保育者・行政の4者が理解し、確認していくことが、計画の実現にもつながると思っているので、ガイドラインの今後の取扱いについても確認したい。
- ニーズ調査の結果については、全てが計画に反映されるものではなく、その根拠となるものでもないということが、昨年度の会議でも話題となっていた。調査結果を踏まえたうえで、部会等において各委員から意見をいただき、どのように反映していくかが重要であると考えている。

ガイドラインを策定している過程においても、次期計画との関係について意見があり、ガイドラインに記載されている考え方や取組については、次期計画に反映させていくという方向で策定していきたいと考えている。

- 各事業の所管課や子育て支援センターの窓口、学校等において、市民と直接関わっている職員が感じている課題や意見を集約し、それを踏まえて計画案を作成していくことが重要である。策定スケジュールが短いなかで、委員から意見を聞くにあたり、ニーズ調査の結果を市がどのように解釈し、何が必要であるのか否か、どのように計画に反映していくのかということを確認を示してもらいたい。
- 子育て支援に携わっているスタッフ等が課題と感じていることや見直しをしたほうが良いと考えていることも多くある。担当部署と相談していることもあると思うが、そのようなことを解決できる方策を具体的に計画に盛り込んでいったほうが、より良い子育て支援につなげることができるのではないかと。

計画については、子ども・子育て支援法により毎年点検・評価を実施している。これまでの会議において、点検・評価の中での委員からの意見や評価は、次期計画の策定のために活用していきたいと考えている。また、計画は幅広い分野を網羅しているため、各委員の推薦団体等に関連する部分を中心に、それぞれの立場からの意見を伝えていただきたい。

- 市と子育て広場などの委託先の縦の繋がりはあるが、委託先同士の横の繋がりが

が持っていない状況がある。市から実施してほしいと言われた内容を他の子育て広場がどのように実施しているのか、出来るか否かも分からない状況で、実施することは困難である。児童館についても同じ状況があり、横の繋がりや全体での集まりのなかで、指導員の交流や情報交換等により、より良くすることができると思っているが、今はそういった環境が無くなっていると感じている。

- 民間児童クラブについても、様々な形態やそれに相当する補助金枠があるが、状況が異なる施設がどのように運営をしているかについて、交流がないため分からない。より良い運営や、質の向上のために、相互交流や研修をする機会等があると良いが、指導員向けの研修はあるものの、交流がない状況である。そのような交流の機会を設け、施設間の結びつきや現場の意見を市に届けられるような仕組みづくりも、市の業務として必要なのではないか。
- 計画の体系図の施策の方向について、現実的に足りていない部分があるとするならば、今回いただいたような様々な意見をもとに、施策として繋げていくことも可能だと考えているので、引き続き意見をいただければと思う。
- 今と昔では、子どもがおかれている環境や、必要な支援について、内容が変わってきていると思う。それをどのように施策に結びつけるかについて、会議で考え、計画に反映させていくべきであるし、早めに対応していくことも必要である。この会議は、乳幼児期から学齢期までの子どもたちに関わっている委員や、学識経験者、市の職員など、様々な立場で子育て支援に携わる人が集まって、意見を交わせる素敵な場だと感じた。横の繋がりを持てるこのような機会を大切にしてほしいと思っている。
- そのような意見をいただき、大変ありがたく思う。今回、配布された幼児教育・保育ガイドラインについては、市として今後、どのように取り扱う予定か確認したい。

ガイドラインは、子育てに関わる全ての人に御覧いただきたいと考えているので、幼稚園や保育所のみならず、子育て広場等にも配布を予定している。子育てに対する考え方や姿勢は、ガイドラインの内容を守らなければならないということではなく、子どもとの向き合う際のヒントとして生かしていただきたい。

- 市の関係部署にも周知がされるのか。
配布し、周知する予定である。
- 先ほど意見があった、団体間の繋がりについては、ガイドラインの中では行政が担う役割として、そのコーディネートに取り組むことを記載している。切れ目のない支援をしていくためには、子育て関係の部署のみでなく、教育関係の部署にも周知し、その内容を理解したうえで、施策を引き継いでいく必要があり、行政が率先して取り組むことが、重要である。

- 母子手帳の交付の際にも、一緒に渡せると良いのではないか。妊娠が分かったときは、喜びや希望に満ちているし、様々な情報を得たいと思っているので、渡されたものは読む可能性が高い。その際に親としての権利だけでなく、同時に責任を負うということも、このガイドラインによって伝えることが出来るのではないかと思う。
- とても良い提案だと思う。この冊子のままではなく、保護者が見たいと思える魅力があるような工夫が必要である。
- 子ども・子育てに関係する全ての方に、このガイドラインを読んでもらい、お互いに共有しながら、その内容を実現していくことが大切である。内容はとても良いものだし、この冊子のままでは、市民に理解もらうためのツールとしてもったいたくない。幼稚園や保育所でも研修などを通じて周知したいと思っているが、このガイドラインを今後どのような形で伝えていくのか、その予定を教えてください。
冊子の形態に関しては、手にとりやすいように変更する予定である。市でも様々な方法で周知をしていきたいと考えているが、日々保護者と接している幼稚園や保育所においても、周知の御協力をいただきたいと思っている。また、保護者に説明した結果がどうであったか、どのようなツールがあれば良いのかという提案も伝えてもらえるとありがたく、その意見を改善に繋げていきたい。
- 助産師として、小・中学校で「いのちのはなし」を実施してきたが、その際に学校長から、子どもたちに関して問題となっていることについて、乳幼児期の子育てが影響する部分が大きく、教員が悩んでいるという話を聞いた。妊娠から子どもの乳幼児期にかけての親子の愛着形成やそのプロセスが重要と考え、命の誕生の話と自己肯定感が育っていくような指導をするよう心掛けているが、市と協力して、この計画の施策について、事業がもっと具体的になっていけば良いと思っている。
- 自己肯定感については、昨年実施した計画の点検・評価の際に、実績値が低いに関連する事業が「現状維持」であって良いのかという議論があった。新しく委員になった方もいるので、昨年度の点検・評価の内容を把握しておいてもらう必要があるのではないか。
新しい委員へ郵送で昨年度の点検・評価の内容をお送りする。資料が多くあるので、各委員が関わっている分野を重点的に確認してもらいたい。
- ガイドラインの策定の際にも愛着形成の問題が議論になっていたが、たとえ子どもが相対的貧困の状況にあっても、乳幼児期から質の高い教育・保育を提供することが、子どもの将来のために非常に効果的であるということが世界的にも立証されている。子ども・子育て支援法も、質の高い教育・保育を保障するための内容となっており、この会議もその法に位置づけられている。これからの

相模原の将来や子どもたちの未来を見据えて、現在の状況や、今後大きく変化する可能性があることが、ガイドラインの理念として記載されているので、この内容をどのように具現化するかについては、各団体等のそれぞれの立場で、一番効果的な方法を模索していただくと良いと考え、このガイドラインを策定したものである。

- 策定の進め方について、総論よりも各論を先に検討していくのは何故か。また、短いスケジュールでの策定ということだが、会議ではどのような資料が提示され、どのような流れで進めていくのか。

厳密に総論と各論を分けて議論するというではないが、総論は全体的・理念的な話になり、各論は細かい部分となるので、各論からの検討を進めたほうが、具体的なイメージが浮かびやすく、分かりやすいためである。会議の進め方については、回数が限られていることもあり、全てを網羅するというよりも、児童虐待防止や待機児童対策などの社会的に関心が高い部分、市や各委員が課題と感じている部分などを重点的に議論していきたいと思っている。変更を要する部分については、その理由や根拠等についての分かりやすい資料を作成し、提示したいと思っている。

- 様々な意見をいただいたが、今回提示された資料について、本日は全てを確認する時間がなかったと思うので、次回の会議においても引き続き議論をお願いしたい。

8 その他

事務局から平成31年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について、資料に基づき説明を行った。

9 閉会

相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
1	片 山 知 子 元 和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
2	川 上 孝 生 相模原市立小中学校長会	出 席
3	木 村 徳 泰 日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	欠 席
4	笹 野 和 子 公募市民	出 席
5	園 田 巖 東京都市大学人間科学部准教授	出 席
6	中 島 清 美 公募市民	出 席
7	中 台 厚 相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出 席
8	永 保 貴 章 一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
9	西 谷 八千代 みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
10	馬 場 眞由美 相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
11	藤 井 春 美 相模原市学童保育連絡協議会	出 席
12	松 原 充 子 特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
13	三 浦 友 則 相模原保育室連絡協議会	出 席
14	村 瀬 麻衣子 一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出 席
15	山 崎 和 正 相模原商工会議所	欠 席

会長 副会長